令和５年１１月１４日

総務産業常任委員会
　委員長　田村　大治郎　様

総務産業常任委員　　松岡　秀樹

総務産業常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先
　令和５年 10 月 30 日（月）
　　広島県神石高原町　「生活交通対策について」

　　10 月 31 日（火）
　　島根県美郷町　「有害鳥獣対策について」

2. 視察参加名簿

委員長	田村　大治郎
副委員長	松岡　秀樹
委員	重廣　正美
委員	有田　茂
委員	早川　文乃
委員	西村　良一
委員	田中　千秋

以上７名

3. 視察報告・所感　別紙

（別紙）

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">広島県神石高原町</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和５年 10 月 30 日　13：30～15：00</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">生活交通対策について</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">総務課</td></tr>
<tr><td rowspan="4">自治体概要</td><td>面　　積</td><td>381.98 ㎢</td><td>高齢化率</td><td>49.7％</td></tr>
<tr><td>人　　口</td><td>8,070 人</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>世　帯　数</td><td>3,782 世帯</td><td></td><td>R5.10 月データより</td></tr>
<tr><td colspan="4">神石高原町は、広島県の東部に位置し、北は庄原市、南は福山市、東は岡山県高梁市、西は府中市と接しており福山市中心部までの距離は約 30km。
平成 16 年 11 月５日、４町村（油木町，神石町，豊松村，三和町）が合併して「神石高原町」が誕生した。
広域交通体系は、町の中央部からやや東側を岡山県新見市と福山市を結ぶ国道 182 号が縦断しており、中国自動車道東城インターチェンジ，山陽自動車道福山東インターチェンジと連絡している。広域合併前の旧町村単位に４つの地区中心地が形成されており、役場本庁・支所、公民館、スポーツ施設、保健福祉施設、医療機関、商業施設、郵便局、金融機関などが分布している。三和地区中心地に神石高原町立病院、油木地区中心地に県立油木高等学校が立地しており、それぞれ町内唯一の施設として広域的な役割を担っている。（神石高原町地域公共交通網形成計画より）</td></tr>
<tr><td colspan="5">視察内容</td></tr>
</table>

広島県神石高原町の生活交通対策について

1. まちの紹介

特徴　・やまなみに集落が点在し、隣の家まで遠い。
・10 戸未満の小規模、高齢化集落が多い。
・マイカー社会。
・電車がない。

（三和地区中心地に神石高原町立病院、油木地区中心地に県立油木高等学校が立地しており、それぞれ町内唯一の施設として広域的な役割を担っている）

2. 生活交通対策

合併時　路線バス 21 系統
福祉タクシー助成事業（各種手帳保持者、75 歳以上非課税者）
→タクシーチケット 48 枚/年

H18～20　路線バス 18 系統
おでかけタクシー（乗合タクシー）※前日までの予約必要
福祉タクシー事業（おでかけタクシー利用が困難な人）
ふれあい号（定時定路線）

H21～26　路線バス 12 系統
町営バス２系統（町内１乗車 300 円）
ふれあい号（定時定路線）26 路線
福祉タクシー（介護タクシー）60 枚/年
公共交通補完事業（タクシーチケット）　48～92 枚/年

H27～28　路線バス 12 系統
町営バス２系統（路線バスとの乗り継ぎ制導入）
ふれあい号減便（26→20→16 路線）帰宅減便２→１
福祉タクシー（介護タクシー）60 枚/年

公共交通補完事業（タクシーチケット）　48～92 枚/年
ふれあい号廃止地域へのチケット交付拡充

～～課題～～
・乗員不足によるバス路線３系統撤退の申し入れ
・利用者の時間調整が困難
・バス停までの距離
・予約が面倒
→利用者数の減

※ 新制度移行を決定し路線型をあきらめる

H29　路線バス９系統
町営バス３系統（乗り継ぎ制継続）
ふれあいタクシー事業（新規）
町外医療機関通院者支援事業（新規）
運転免許証自主返納者支援事業（新規）

Ｒ３　路線バス３系統
町営バス２系統（乗り継ぎ制継続）
ふれあいタクシー事業
町外医療機関通院者支援事業
運転免許証自主返納者支援事業

3. タクシー助成制度
町内に居住する高齢者等の交通弱者のタクシー利用に利用料金の一部を助成する制度。

内　容		
利用目的	町内であればどこでも（通院，買い物，食事など）行くことができます。	
利用料金	普　通　車	目的地まで片道最大900円で利用できます。
	9人乗り車両	目的地まで片道最大3，000円で利用できます。
利用回数	1人1か月20回まで	
利用できる事業者	町内タクシー事業者及び介護タクシー事業者の普通車～9人乗り車両，介護車両を利用できます。	
相乗り	タクシー利用者の1人が「利用者証」を持っていれば，相乗り同乗者も対象となります。 ※「利用者証」を持った人が先に乗車している必要があります。 ※相乗り乗車は，目的地までの通常経路沿いでの乗車が対象です。	

対象となる資格要件

神石高原町内に住所を有し，次のいずれかに該当する人
①満75歳以上の方
②身体障害者手帳の交付を受けた人
③療育手帳の交付を受けた人
④精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた人
⑤特定疾患医療受給者証の交付を受けた人
⑥介護保険法に規定する要介護者及び要支援者
（介護予防・生活支援サービス事業対象者を含む）
⑦満75歳未満で運転免許証を返納した人
⑧その他町長が認めた人
・運転免許証を所有していない人（18歳以上で学生を除く）
・原付及び自動二輪免許のみ保有している人（18歳以上で学生を除く）
・母子健康手帳の交付を受けている人（許可の日から出産予定日の後1年間に限る）



制度移行に伴う効果
・利便性の向上により輸送人員が増加
・１人当たりの輸送コスト減
・タクシー事業者の存続可能性の向上

4. 今後の課題等
・財政面
・需給バランス
・その他生活交通を取り巻く課題など
（どこまでが生活交通の領域？　バス運賃の適正化　町営バス運賃の見直し　ＤＸ）

所　　感

・神石高原町は、長門市の人口の 1/4 程度であり、高齢化率も高く、過疎も進んでいる。現在の長門市内でも俵山や向津具などの地域と近い環境であり、十数年先の未来の長門市全域でもあるとの認識でこのお対策をお聞きした。ふれあいタクシー事業に行きついたが、やはりこの制度が最も適してた制度であるとの認識を持たれていた。

・神石高原町での取組は合併した H18 年から 17 年以上も行われているが、短い期間で何度も見直しを行い今の制度にたどり着いたという経験をされている。この短期間で方針転換が出来るということも評価できると感じた。

・ふれあいタクシー制度が一番良い方法だという担当者のお話をお聞きしていて、俵山や向津具地域では、タクシーサービスと同等のサービスである、オンデマンドの早期試行も実施してみる必要性を感じた。

・長門市全地域で同じサービスである必要はなく、地域の状況に応じた制度を実施することが大事ではないかと考えられるようになったことは大きな収穫であると感じている。

（別紙）

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">島根県美郷町</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和５年 10 月 31 日　10：00～11：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">有害鳥獣対策について</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">美郷バレー課、吾郷地域婦人会（青空サロン）、雅☆ ねぇ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">自治体概要</td><td>面　　積</td><td>282.92 ㎢</td><td>高齢化率</td><td>47.9%</td></tr>
<tr><td>人　　口</td><td>4,355 人</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>世　帯　数</td><td>1,844 世帯</td><td></td><td>R2 国勢調査より</td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 16 年 10 月１日邑智町・大和村の合併により誕生。合併前の２町村（邑智町と大和村）を江の川（ごうのかわ）が貫流し、その両岸に中国山地が織りなす四季折々の豊かな自然と美しい街並みが広がる様子は、日本の古き良きふるさとの原風景を思い起こさせる。
「美郷（みさと）」の町名には、自然豊かな美しい故郷（ふるさと）をいつまでも残しておきたいという住民の願いが込められており、「みさと」という響きが持つ温もりは、人情豊かで、住民がいきいきと暮らしているこの地域を非常によく表しており、新町の名称として決定された。
島根県内 19 自治体にあって人口 10 万人当たり百歳以上高齢者数の割合が１番高い長寿の町。町には高校や総合病院、ホームセンター、ドラッグストアがなく、ローカル線も２０１８年に廃線となっている。（美郷町ＨＰより）</td></tr>
<tr><td colspan="5">視察内容</td></tr>
<tr><td colspan="5">

美郷町の鳥獣被害対策
三者（農業者等、駆除班（猟友会）、自治体）の利害関係の相違
鳥獣対策の捕獲と狩猟の混同
“ジビエ”獣肉利活用の実態　「農」と「商」の利害がずれていた

おおち山くじら物語
第１章（点）獣害対策の抜本的改革
猟友会依存の組織体制から、農家・住民主体の捕獲体制へ再編

第２章（線）夏イノシシ資源利活用
食肉、ペットフード、皮革、家畜飼料原材料など余すことなく活用
農家の捕獲イノシシ処分の負担軽減と資源利活用

第３章（面）地域づくり・コミュニティビジネス
鳥獣と人間の戦い→過疎・人口減少の波との闘い
※依存体質による失った自立や主体性の喪失を再生
第４章　定住・雇用・ローカルビジネス
産・官・学・民による
ヒト・モノ・カネ・情報の集約と新しい取り組みやノウハウ
麻布大学フィールドワークセンター開設

第５章　美郷バレー構想（2019 年～）
タイガー株式会社美郷バレー中国営業所開所
</td></tr>
</table>

吾郷地域婦人会（青空サロン）
井上雅央氏(獣害対策研究家)による講演

婦人会の活動（青空サロン市場、皮革加工品の製造・販売）
青空サロン畑（獣が寄り付きにくい畑の作り方を学ぶ農場）

所　　感

＜美郷バレー課＞
・美郷バレー課は安田課長はじめ 3 名だが、安田課長は 20 年以上前から当時の町長に抜擢され獣害対策を継続して行われている。その中で農業者、猟友会の 3 者の利害関係の違いを認識し、農業者による農業者のための獣害対策をすることに突破口を見出し実践されてこられている。それを地域の活性化にまで昇華させてこられた、発想と努力には素晴らしさを感じました。

・地域活性化の面では、東京の大学や大阪の企業と提携したプロジェクトを立ちあげるなど産官学のスキームをベースに次の構想に進まれているようであった。過疎地域を活性化するには、都市部との交流人口を増やすことは重要であり、産官学スキームにも上手さを感じる。このような協力者を呼込めるのも、理念と信念をもった安田課長の力の大きさを感じた。

・この成功モデルは長門市でも当てはまるものであり特に俵山では当てはまる印象をうけた。ただし実施するには強い理念と信念を持ったチームの必要性も感じた。既存の概念や組織の考えに変革が必要となる。しっかりしたロードマップを作成して獣害対策に対する認識を変えるためのステップを一段ずつ登っていく地道さが求められる。

・美郷バレーのような地域活性化モデルで考えると、農業だけではなく漁業でも同じように、大学や企業を集積した問題解決のための研究拠点を設置して長門版のながとバレーというものを考えたい。三隅 IT 拠点などこのながとバレーとなりうるかもしれないので継続して調査をしていきたい。

＜井上雅央氏(獣害対策研究家)による講演＞
・NHK スペシャル「獣害を転じて福となす ～雅(まさ)ねえと中国山地の物語～」で、美郷町在住の井上雅央氏こと雅ねえの岡山県での獣害対策の取組が紹介されていた。住民が雅ねえの講演を聞いて実践して少しずつ地域の住民が団結してみんなで獣害から田畑を守る意識が出来てきたという内容であった。ご本人からお話が聞ける機会が得られたことにはとても幸運であったし、井上氏には感謝いたします。

・美郷バレー課の安田課長も話されていたが、行政に頼っていては獣害対策はうまくいかないという考え方には感銘を受けた。
雅ねえの言葉として
1)公助には、自助共助を活性化するものと、自助公助を封印するものがある。
2)男は先送りできる仕事をする。「先送り、したふり、責任逃れ」である。
3)獣害対策は、やってもらう事と思っている。お金をつかうところは失敗する。

4)女性中心に対策をすると、日替わりでヒロインが出てきて被害を止められる。
5)被害があっても役所に行かない、自分で止めればいいという意識が大事。
6)自分で守れるようになるための公助は必要。
7)予算いっぱい、柵いっぱい、農家は不満いっぱい
8)公助には2種類あることを覚えて帰って欲しい。

・井上氏は、奈良県の職員から農水省の獣害研究員としての経歴があるからこそ、補助金の出し方の問題点をたくさん体験されたからこそ、このような言葉が出てくるのだとひしひしと感じた。獣害対策だけではなく市民活動や防災対策など多くの施策でも同様のことが言えると思う。市民が自力で活躍できるための公助を考えていくべきだと感じた。